

環境にやさしい都市と交通を目指すフランス・レンヌ市の取組みについて

2026年 3月15日

(株)ケー・シー・エス 顧問

岩崎 裕直



本日発表のレジюме

- 1 レンヌ市の概要
 - 2 レンヌ都市圏の公共交通網
 - 3 基幹交通の地下鉄
 - 4 TRAM BUS計画
 - 5 高速自転車ネットワーク
 - 6 自転車の家
 - 7 二つのゾーン規制
- + 最近の話題

1 レンヌ市の概要

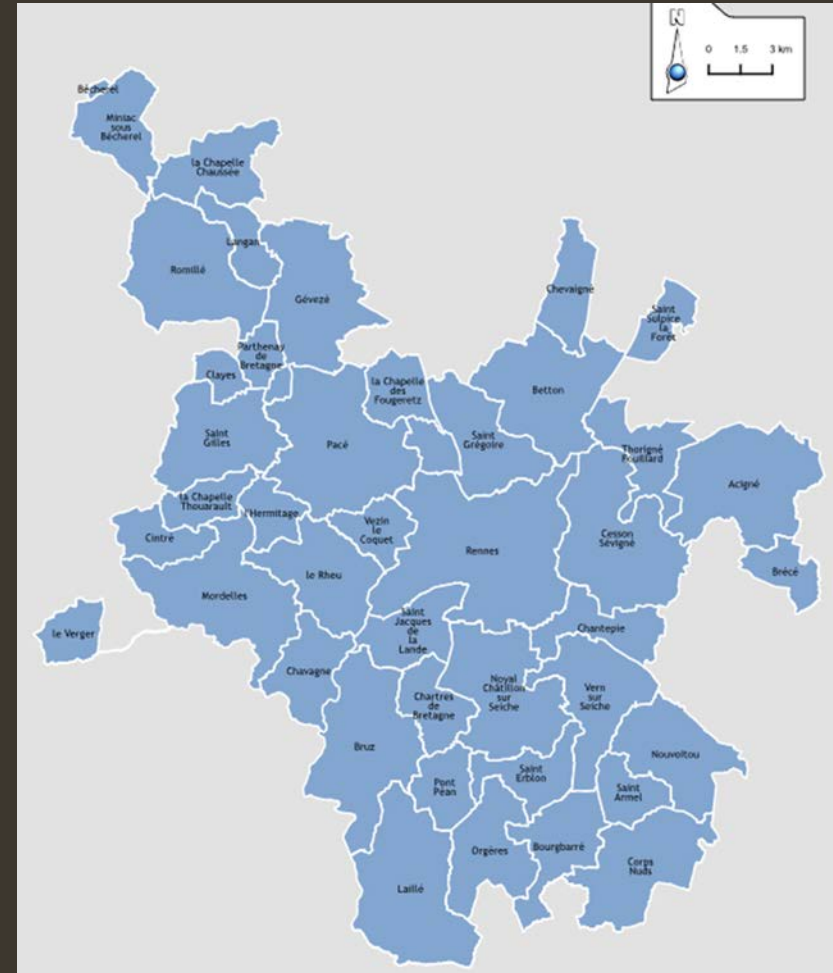
2

レンヌ市



市域面積:約50km² 人口:約23万人

レンヌ都市圏(Rennes Metropole)



43コミューンで構成(面積約700km², 人口約46.7万人)

1 レンヌ市の概要

3



レンヌ市

レンヌ市はブルターニュ州の州都であり、政治・経済・文化の中心地

中世以来の伝統的な建築と近代的な建築とが調和した落ち着いたまち

多くの高等教育機関や研究機関が設置し、農畜産業が盛んだが、食品工業や先端技術産業も立地 近年レンヌ都市圏(Metropole)を形成



レンヌ市庁舎



レンヌ都市圏行政庁舎



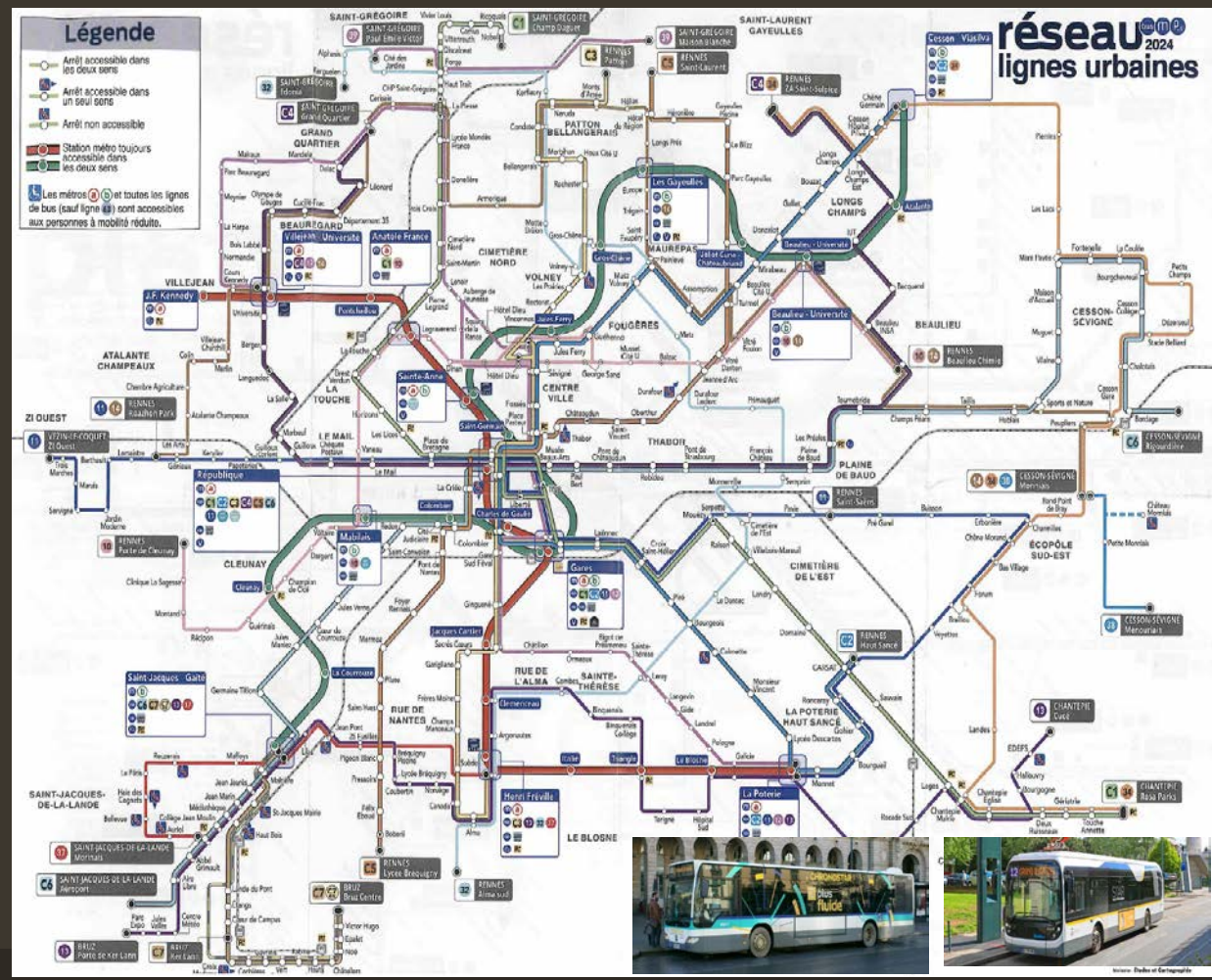
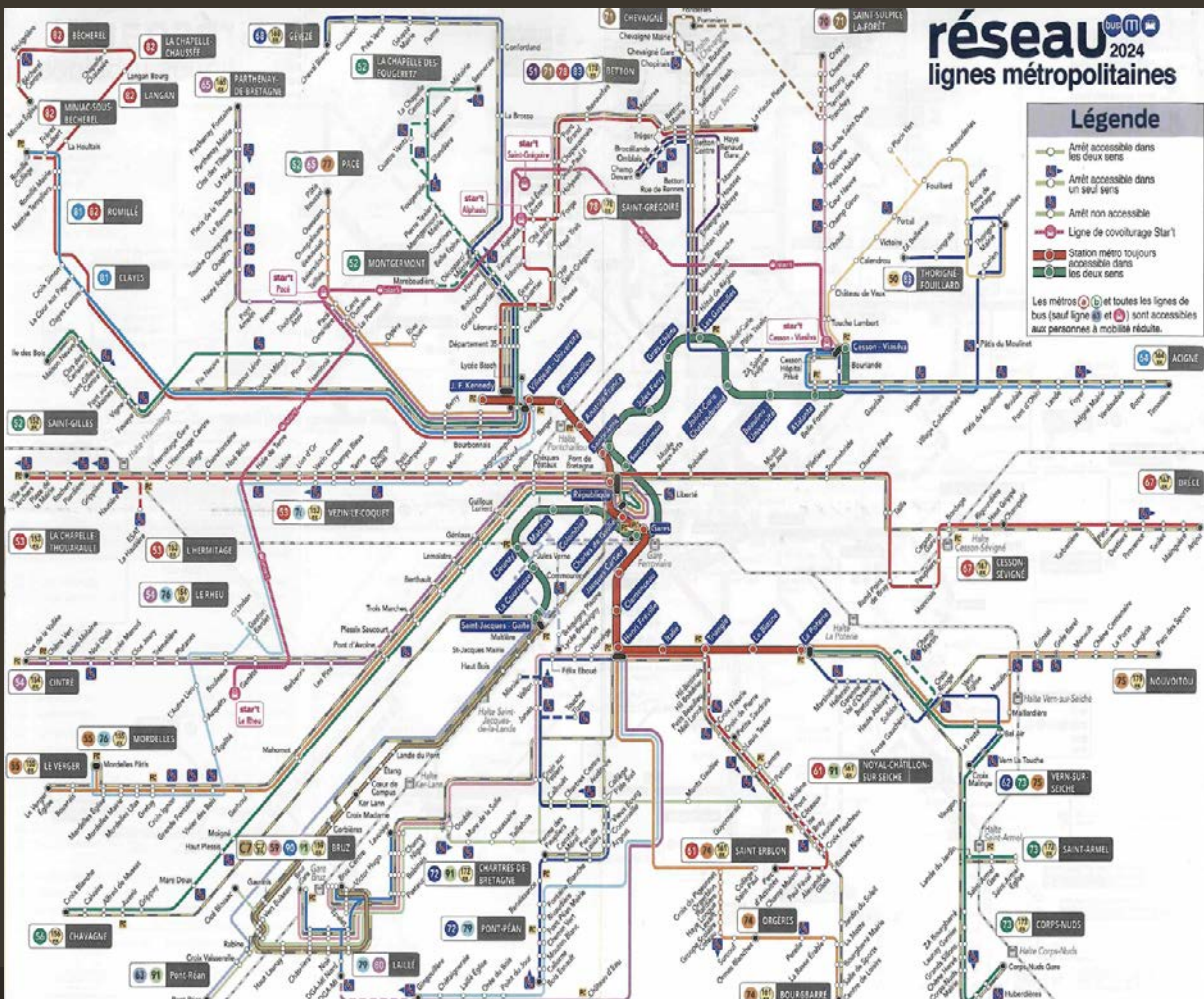
2 レンヌ都市圏公共交通網

バス路線数：150

公共交通利用者：約19万人/日(2021年)

レンヌ市郊外

レンヌ市中心部

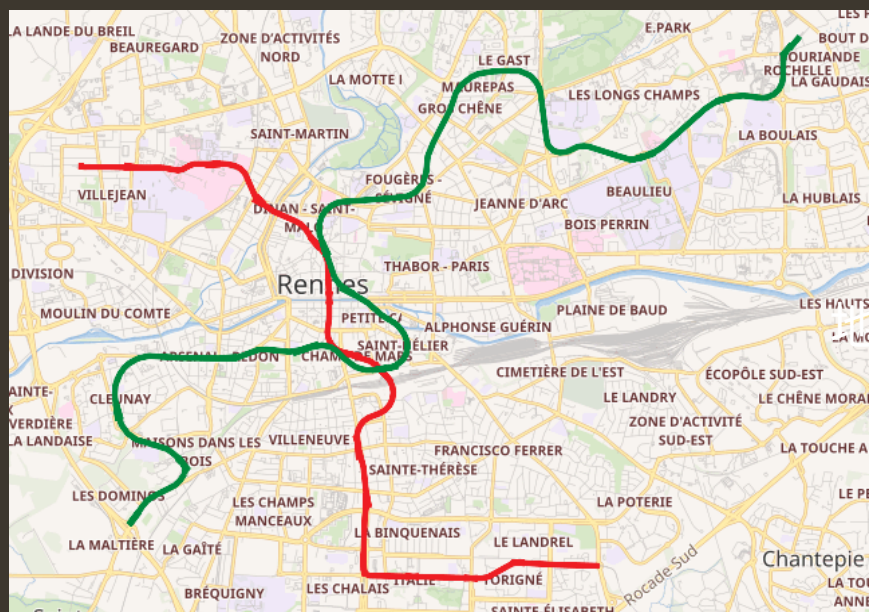


幹線バス

EVバス

3 基幹交通の地下鉄

レンヌ市地下鉄



地下鉄b線

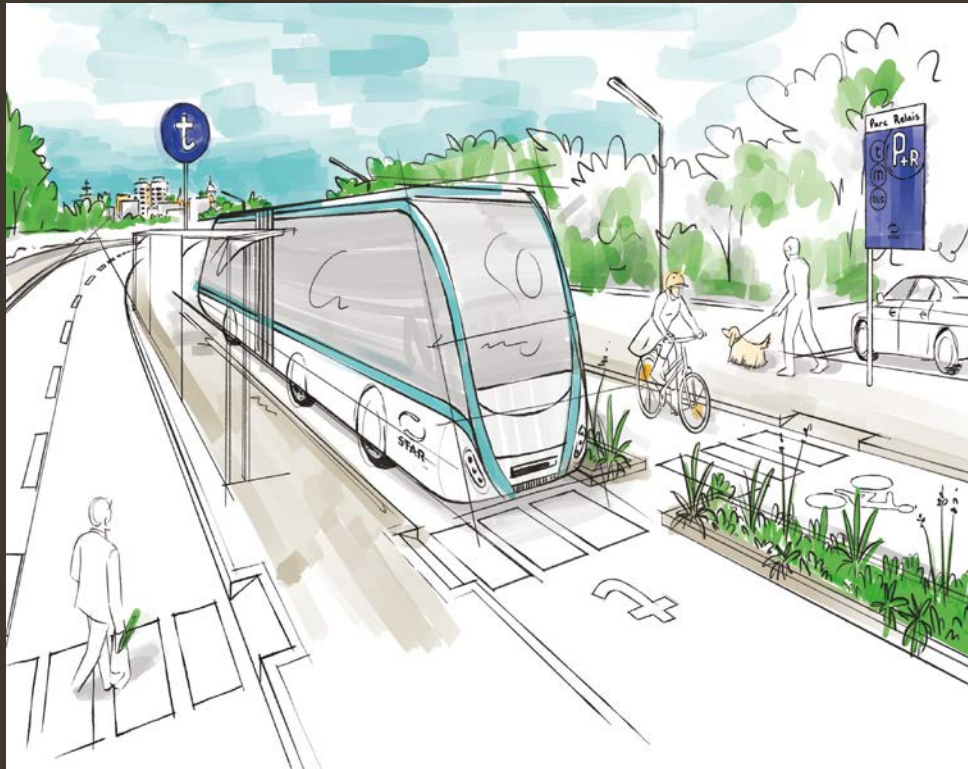


路線名	営業区間	営業 キロ	駅数	開業 時期	車両数	1編成 車両数	1日平均 乗車人員
a線	J. F. Kennedy⇄ La Poterie	8.6km	15	2002年3月	60	2	145,000 (2022年)
b線	CessonViasilva⇄ Saint-Jacques Gâté	12.8km	15	2022年9月	50	2	80,000 (2022年)

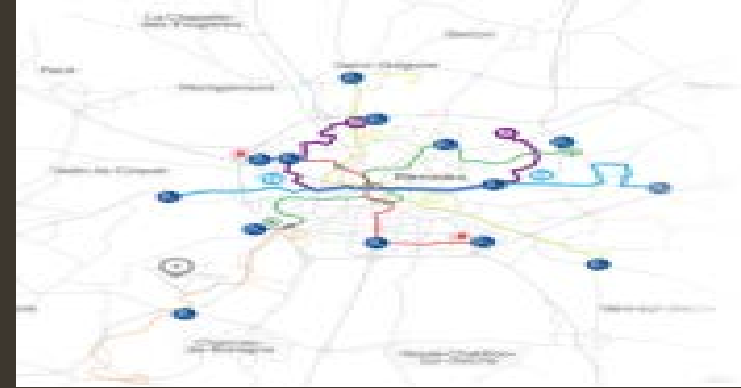
4 TRAMBUS計画

2030年までに4路線整備

レンヌのTRAMBUSイメージ



路面電車の利点とバスの柔軟性を兼ね備えた連節電気バスで専用の走行帯を運行。(運行時間帯は午前5時25分から午前0時35分まで、運行サービスは4~8分に1本の高頻度)



(参考)Bayonne市のTRAMBUS(BHNS)

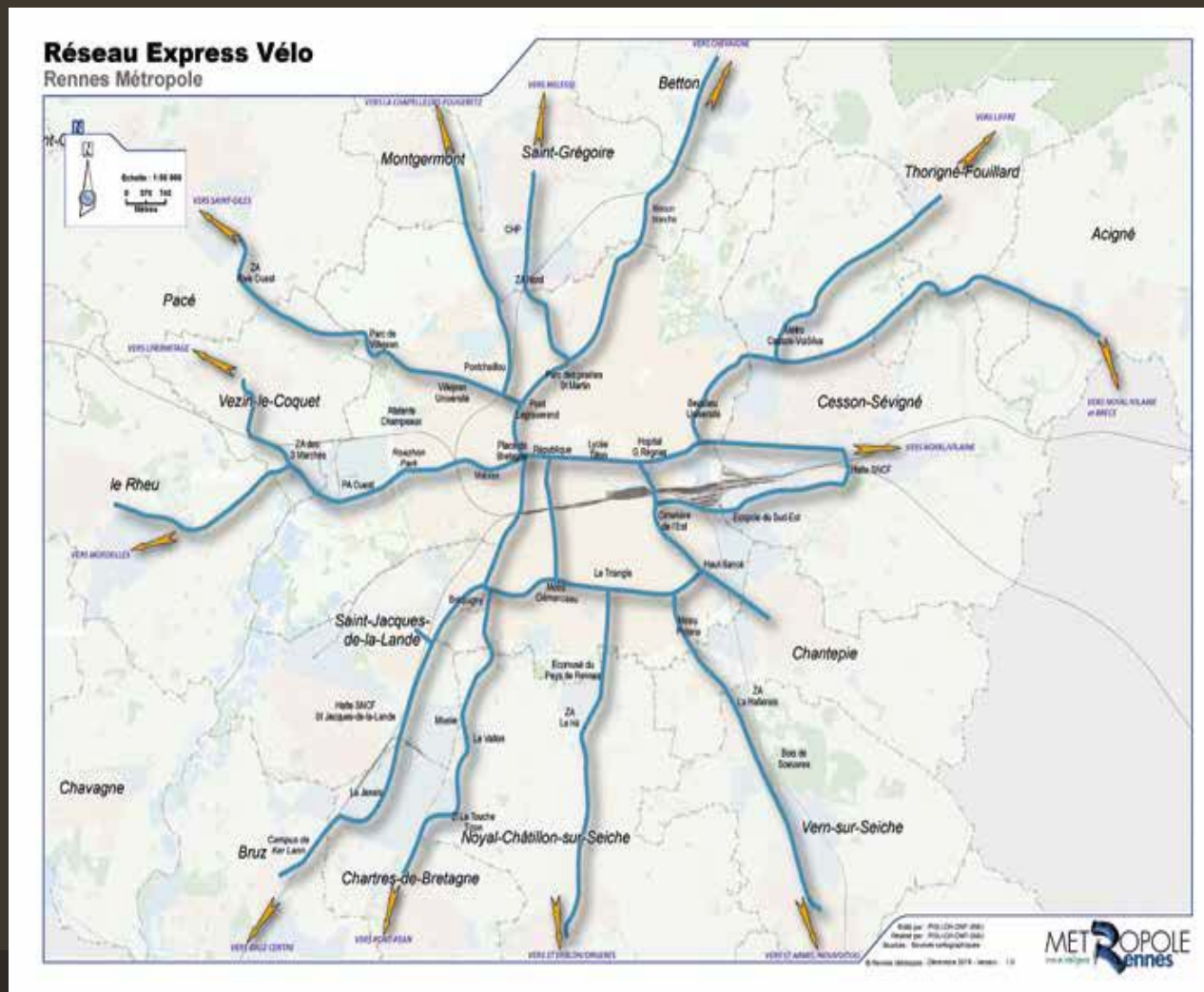


TRAM仕様の連節車両で100%電動車両を採用し起終点部で急速充電システムにより給電
BHNSとはBus à Haut Niveau de Service(高レベルのサービスバス)

5 高速自転車ネットワーク

7

レンヌ都市圏の高速自転車ネットワーク



2030年までに500km整備(現在104km完成)

レンヌ市にある第一環状道路と郊外の間にある自転車走行帯整備により構成

レンヌメトロポール(都市圏)の住民の80%が利用可能

目標は、安全な接続により平均速度20km/hに達する走行環境整備



6 自転車の家

自転車のサービス拠点づくり(メンテナンスやレンタルなど)



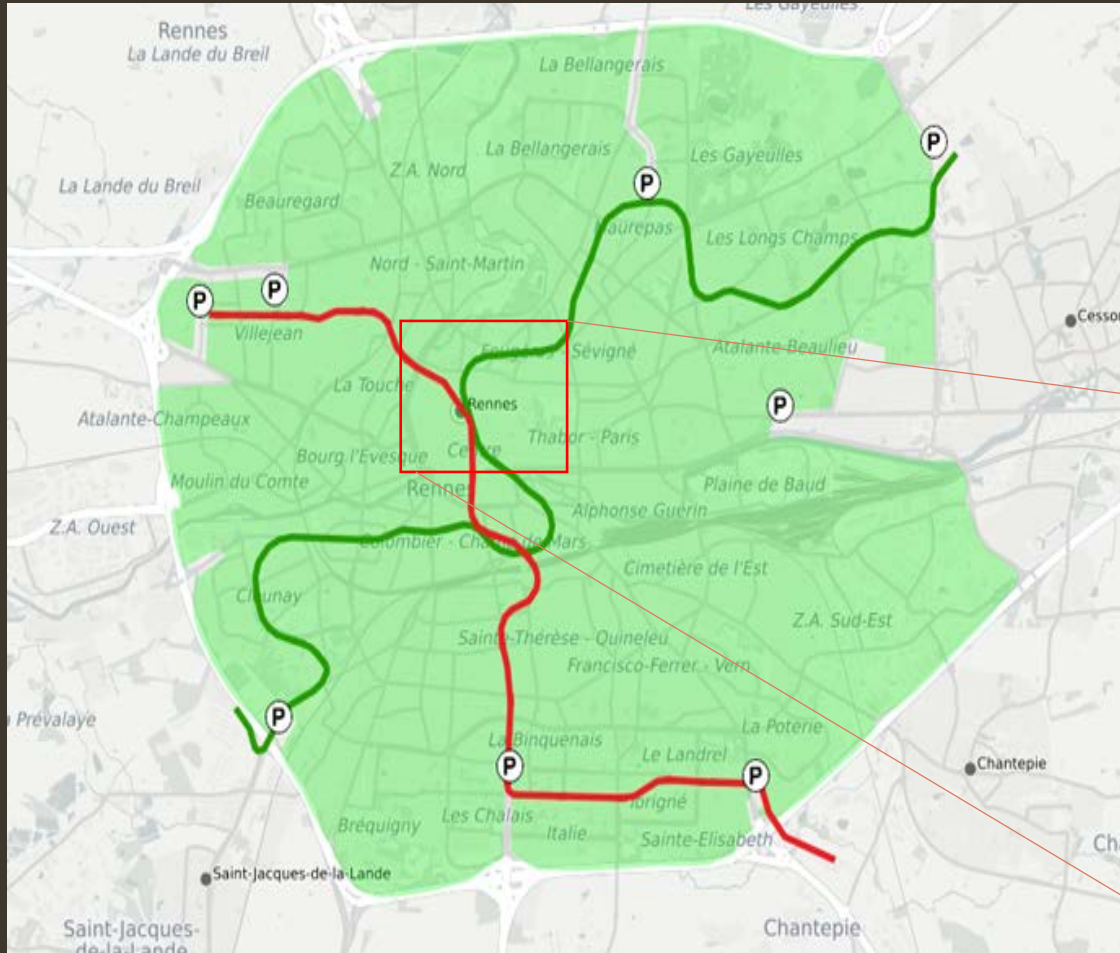
固定タイプ



移動タイプ

7 二つのゾーン規制

レンヌ都市圏のZFE-m(低排出ゾーン規制)



ZFE-m=La Zone à Faibles Émissions mobilité

2025年1月から段階的に2030年まで実施

「Crit' air」ステッカーを貼った車両(電動二輪車、乗用車、バン、重量物運搬車)のみが低排出ゾーンである環状道路内の通行が許可される



歴史的な中心地区のZTL交通規制(20km/h)2023年2月～

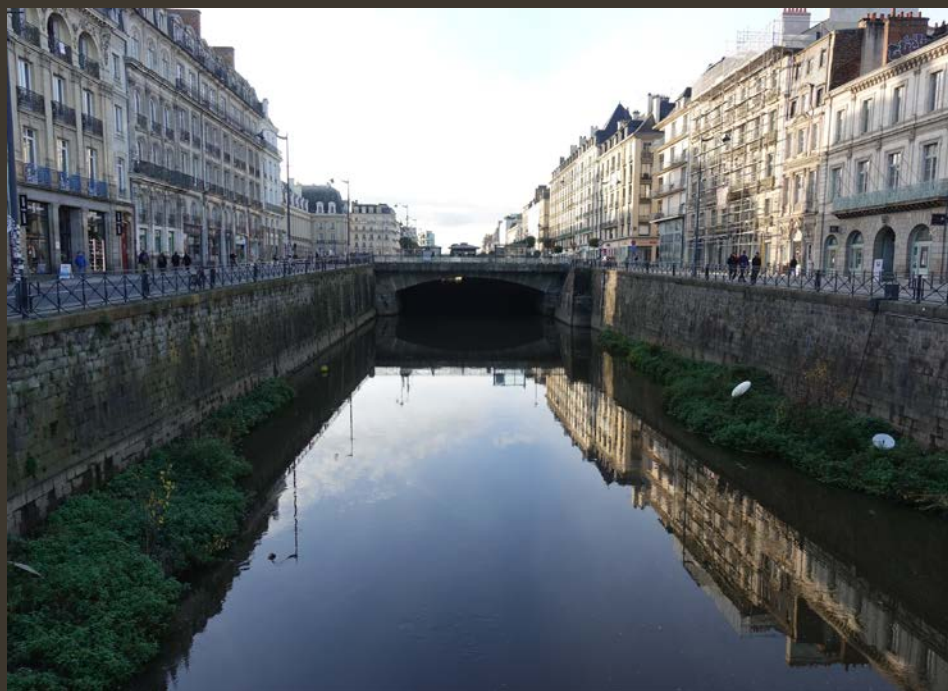


ZTL=Une Zone à Trafic Limité



最近の話題

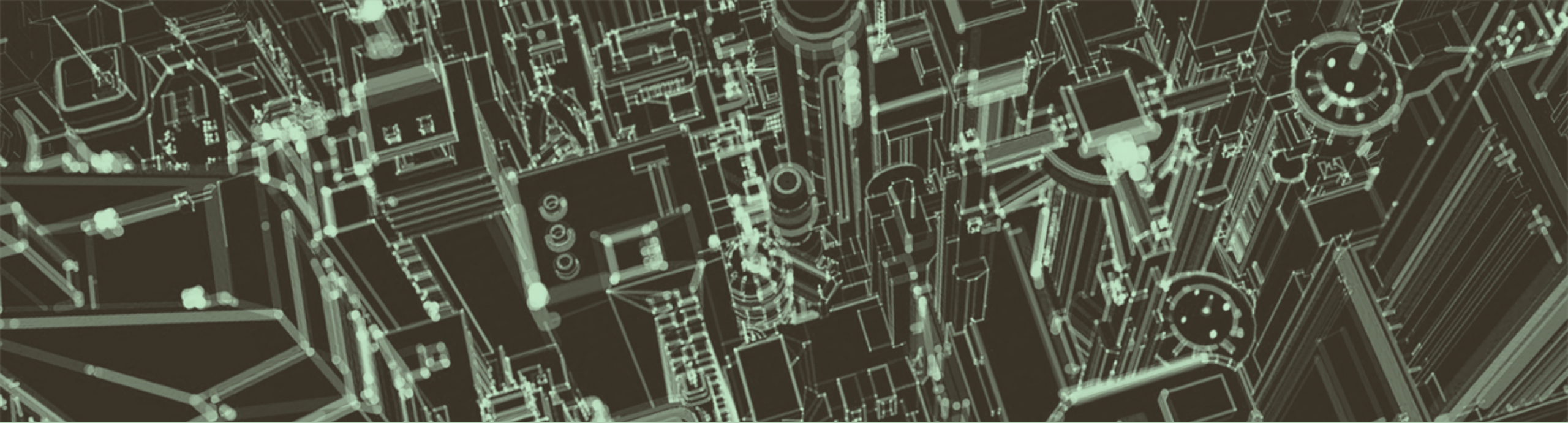
レンヌ市中心部を流れるヴィレーヌ川の上蓋式公共駐車場の撤去している



現在のヴィレーヌ川(2024年撮影)



整備イメージ



ご清聴ありがとうございました

(株)ケー・シー・エス 顧問 岩崎 裕直

